

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-770/77C	12-119	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and the risk of hypertension in men and women: a systematic review and meta-analysis. 男女における飲酒と高血圧のリスク：システマティック・レビューとメタ分析		
執筆者		
Briasoulis A, Agarwal V, Messerli FH.		
掲載誌		
J Clin Hypertens (Greenwich). 2012 Nov;14(11):792-8. Review.		
キーワード		
飲酒、高血圧、システマティック・レビュー、メタ分析		
要 旨		
<p>目的： 多量の飲酒は、高血圧のリスクを高めるが、軽度から中等度の飲酒と高血圧との関連は一致した結果がみられていない。平均的な日常の飲酒量と高血圧発症リスクとの関連をシステマティック・レビューとメタ分析を通して分析することを目的とした。</p> <p>方法： データベースを用いて、アルコール消費の量的な測定と生物学的なアウトカムの測定をした前向きコントロール研究を検索した。主たるエンドポイントは、アルコール消費にもとづいた高血圧を発症リスクとした。各々の研究から飲酒量はアルコール摂取の異なった分類間の比較を行うためにアルコール消費カテゴリの中位の値に基づいてカテゴリに分類した。</p> <p>結果： 16の前向きな研究（33,904人の男性と193,752人の女性）が分析に含まれた。非飲酒者と比べると男性は、1日あたり10g以下と11～20gの飲酒者で高血圧のリスクが増加傾向であった（RR1.03;95%CI0.94-1.13; p=0.51、RR1.15;95%CI0.99-1.33; p=0.6）。一方、31～40gと50g以上の飲酒者では、有意であった（RR1.77;95%CI1.39-2.26; p<0.001、RR1.61;95%CI1.38-1.87; p<0.001）。女性では、1日あたり10g以下の飲酒者は逆に予防効果が認められた（RR0.87;95%CI0.82-0.92; p<0.001）。さらに11～20gの飲酒者も予防的な効果をしめす傾向がみられた（RR0.9;95%CI0.87-1.04; p=0.17）。一方、21～30g、31～40gの飲酒者は血圧の有意なリスクであった（RR1.16;95%CI0.91-1.46; p=0.23、RR1.19;95%CI1.07-1.32; p=0.002）。</p> <p>結論： 男性では多量の飲酒は、高血圧のリスクの増加と関連していた。少量と中等度の飲酒は、高血圧のリスクを上昇させる傾向があった。女性においては、飲酒と高血圧の関連はJ字型の曲線を認めた。飲酒を制限することは、男性・女性ともにアドバイスされるべきである。</p>		